



アドビ株式会社  
141-0032 品川区大崎 1-11-2  
ゲートシティ大崎イーストタワー

## アドビ、パートナーエコシステムを拡大し、顧客体験オーケストレーションのためのシームレスなワークフローを提供

- アドビは、テクノロジー企業、代理店、システムインテグレーターと提携し、効果的なマルチエージェントコラボレーションを実現する最適なプラットフォームとして、企業における優れた顧客体験と成果の最大化を支援
- アドビは、Amazon Web Services (AWS)、Anthropic、Google Cloud、IBM、Microsoft、NVIDIA、OpenAI などの AI プラットフォームとの連携を拡大し、企業のエージェントを活用したワークフロー拡張を可能に
- 広告代理店（dentsu、Havas、Omnicom、Publicis、Stagwell、WPP）やシステムインテグレーター（Accenture、Capgemini、Cognizant、Deloitte Digital、EY、IBM、Infosys、PwC、TCS）は、アドビの AI 機能を活用し、顧客エンゲージメント、コンテンツサプライチェーン、ブランドの可視性といった領域において、カスタマイズされたソリューションを企業に提供

※当資料は、2026 年 4 月 20 日（米国時間）に米国本社から発表された[プレスリリース](#)の抄訳版です

【2026 年 4 月 21 日】

アドビ（Nasdaq: ADBE）（本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ）は本日、世界最大級のデジタルエクスペリエンスカンファレンスである [Adobe Summit](#) において、主要なテクノロジー企業、広告代理店、システムインテグレーターにまたがるエージェント型エコシステムを大幅に拡大し、企業全体にわたりエージェント型ワークフローを拡張することを発表しました。これによりクリエイターやマーケターは、AI によるインサイトと自動化を活用し、大規模にパーソナライズされた顧客体験を提供できるようになります。

これらのパートナー連携は、「[Adobe CX Enterprise](#)」の一部として提供されます。このエンドツーエンドのエージェント型 AI システムは、企業の顧客ライフサイクル全体をシンプルに管理します。世界中の 2 万以上のブランドが Adobe を基盤としてビジネスを構築しており、Adobe CX Enterprise はデータ、コンテンツ、カスタマージャーニーに関する数十年の専門知識に根ざしています。これにより信頼性が高く、検証可能で、コンテキストを理解できるエージェントを実現します。これには、定義されたビジネス目標に基づいてタスクを実行するために設計された専門の AI エージェントである「[Adobe CX Enterprise Coworker](#)」も含まれます。企業がエージェント型 AI を導入して、顧客体験オーケストレーション（CXO）の再構築を進めている一方で、モデル、プラットフォーム、ワークフロー間の分断が進んでいます。AI 導入によるビジネス上の価値を実現するためには、個別のツールやクローズドなシステムではなく、実際のワークフローに基づいて設計されたオープンで相互運用性可能なエコシステムが必要です。

アドビの顧客体験オーケストレーション担当シニア バイス プレジデントであるアミット アフジャ（Amit Ahuja）は、次のように述べています。「マーケターは、自社の標準 AI ツールが直接対応できないために、成果を生み出すために必要なマーケティングツールを使えないという状況に置かれるべきではありません。アドビはパートナーエコシステムを拡大し、Adobe CX Enterprise 向けに高度にカスタマイズされた連携機能を提供することで、このギャップを埋めています。企業に柔軟性と選択肢を提供し、エンタープライズ規模のコンテキスト、信頼性、ガバナンスを維持しながら、チームがより賢く、より迅速な意思決定を行えるよう支援します。」

アドビ はエージェント型 AI 時代において、顧客エンゲージメント、コンテンツサプライチェーン、ブランド可視性を測定するワークフロー全体を網羅する包括的なソリューションによって、CXO の未来を再定義します。アドビのマルチエージェント対応型オーケストレーションソリューションは、反復的なタスクを自動化し、AI によるインサイトを可視化することで、相互運用上の課題を解消します。アドビは CX Enterprise とパートナーの連携をエージェント、スキル、Model Context Protocol（MCP）サーバーをまたいで実現するため、チームはブランドの整合性とガバナンスを維持しつつ、より迅速かつ正確に行動できます。

## マーケティングワークフローの効率化

アドビは、企業が導入済みの環境と既存の業務フローの中に顧客体験インテリジェンス（パフォーマンスインサイト、ターゲットオーディエンス、ジャーニー）を自然な形で組み込むことで、ジャーニーの最適化やキャンペーンパフォーマンス分析といった重要なタスクを効率化します。Adobe Marketing Agent は [Microsoft 365 Copilot で一般提供](#)されており、ベータ版で Amazon Quick、Anthropic Claude Enterprise、ChatGPT Enterprise、Gemini Enterprise、IBM watsonx Orchestrate に対応しており、アドビの顧客体験インテリジェンスが、チームがどこで作業していても利用可能です。デジタル顧客エンゲージメントで広く採用されているプラットフォーム、[Adobe Experience Platform](#) の信頼性の高いファーストパーティデータとコンテンツを基盤とするこのエージェントは、実用的なインサイトを提示したり、担当者による確認が必要な重要事項をフラグ付けしたりすることで、あらゆる意思決定がデータに基づき、目標に沿って実行されるよう支援します。

## 異なるエンタープライズプラットフォームをシームレスに統合

アドビのエージェント型 AI へのアプローチは、実行性と拡張性を重視し、チームが日々利用しているプラットフォームに自然に組み込まれるよう設計されています。エージェントのスキルと開発者ツールを連携させることで、アドビはインターフェイスの差異を超えて拡張可能な多段階のエージェント型ワークフローを実現し、組織が既存のツールやテクノロジースタック内でアドビのインテリジェンスを利用できるようにします。

- アドビの AI エージェント、スキル、開発者ツールは、Amazon Web Services、Anthropic、Google Cloud、Microsoft、OpenAI の各サービス内で利用可能となり、マーケティングチームやクリエイティブチームが日常的に使用するツール内で直接アドビの CXO 機能にシームレスに接続できるようになります。これにより、エージェント型 AI からの価値創出が加速されます。
- アドビは NVIDIA と提携し、NVIDIA Agent Toolkit ソフトウェアを活用して「CX Enterprise Coworker」を構築しています。これにより、企業はアドビの顧客体験インテリジェンスを、オンプレミスまたはクラウドで利用可能な、安全かつポリシー管理されたランタイム環境である NVIDIA OpenShell 上に展開できるようになります。

- アドビアプリケーション内では、Acxiom、Demandbase、Genesys、RainFocus、SAPとの新たな連携により、チームはツールを切り替えることなく、単一の連続したフローの中でデータの分析、ワークフローの問題解決、アクションの実行が可能になります。
- アドビは、AI搭載の対話型ソリューション「[Brand Concierge](#)」のパートナーエコシステムを拡大し、製品探索から検索、サポート、ロイヤルティプログラムまで、顧客接点を一元化します。[24]7.ai、Algolia、Netomiとのパートナーシップにより、アドビとパートナーのエージェントを連携させた、ガバナンスの効いたエージェント型AIを提供し、一貫性のあるパーソナライズされた顧客体験を実現します。これにより信頼構築、エンゲージメント向上、長期的なロイヤリティの醸成が可能になります。
- アドビはエージェント主導の対話に決済機能を組み込むため、Adyen、PayPal、Stripeとパートナーシップを組み、シームレスなチェックアウト体験を確実に実現します。

#### エージェント時代に向けた代理店およびシステムインテグレーターとの連携強化

アドビは、エージェント型AIの市場展開モデルを拡大します。dentsu、Havas、Omnicom、Publicis、Stagwell、WPPといった世界有数の代理店各社は、Adobe CX Enterpriseを標準プラットフォームとして採用し、各社の独自の知的財産や業界の専門知識とアドビのAI機能を組み合わせることで、共通顧客向けに革新的かつ差別化されたソリューションを共同開発しています。これにより、成果重視の顧客体験を大規模に実現する新たな基準が築かれています。これらのパートナーシップは、ユーザーエンゲージメント、コンテンツサプライチェーン、ブランド認知といった領域で、企業が達成できる水準を引き上げ、クリエイティビティ、ブランドに沿ったコンテンツ、体験のオーケストレーションを新たなレベルで実現します。

さらに、Accenture、Capgemini、Cognizant、Deloitte Digital、EY、IBM、Infosys、PwC、TCSといった主要なシステムインテグレーター各社は、アドビのエージェント機能を活用して主要な業界向けにエージェント型ソリューションをパッケージ化しています。これにより顧客はテクノロジースタックの最新化を進め、価値実現までの期間を短縮できます。

#### Forward-looking statements

This press release contains “forward-looking statements” within the meaning of applicable securities laws, including those related to Adobe’s new, enhanced or future AI and product capabilities, innovations and solutions and the expected benefits to Adobe. Each of the forward-looking statements we make in this press release involves risks, uncertainties and assumptions based on information available to us as of the

date of this press release. Such risks and uncertainties, many of which relate to matters beyond our control, could cause actual results to differ materially from these forward-looking statements. Factors that might cause or contribute to such differences include, but are not limited to: failure to innovate effectively and meet customer needs; failure to compete effectively; issues relating to development and use of AI; damage to our reputation or brands; failure to realize the anticipated benefits of acquisitions, investments or other strategic transactions; failure to recruit and retain key personnel; service interruptions or failures in information technology systems by us or third parties; security incidents; failure to effectively develop, manage and maintain our sales channels or critical third-party business relationships; risks associated with being a multinational corporation and adverse macroeconomic and geopolitical conditions; complex sales cycles; litigation, regulatory inquiries, investigations and other actions; changes in, and compliance with, global laws and regulations, including those related to information security and privacy; failure to protect our intellectual property; changes in tax regulations; complex government procurement processes; risks related to fluctuations in or the timing of revenue recognition from our subscription offerings; fluctuations in foreign currency exchange rates; impairment charges; our existing and future debt obligations; catastrophic events; and fluctuations in our stock price. Further information on these and other factors are discussed in the section titled “Risk Factors” in Adobe’s most recently filed Annual Report on Form 10-K and Adobe’s most recently filed Quarterly Reports on Form 10-Q. The risks described in this press release and in Adobe’s filings with the U.S. Securities and Exchange Commission should be carefully reviewed. Adobe undertakes no obligation, and does not intend, to update the forward-looking statements, except as required by law.

## ■ 「アドビ」について

アドビは「Empowering Everyone to Create」というミッションのもと、すべての人に創造する力を提供してまいります。

アドビに関する詳細な情報は、web サイト (<https://www.adobe.com/jp/about-adobe.html>) をご覧ください。

© 2026 Adobe. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.